

## 現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	経済経営研究所
-----	------------	----------	---------

### 1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

### 2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

#### ○顕著な変化のあった観点名:研究活動の実施状況

平成 20 年度・21 年度の 2 年間に於いて、著書 11 冊（1 人当たり 0.5 冊）、学術論文は 137 本（1 人当たり 6.2 本）、内査読付は 45 本（1 人当たり 2 本）となっており、教員 1 人当たりの年平均値は既に高水準にあった中間評価時の 4 年間（平成 16～19 年度）と同水準を維持している。外部資金獲得額に関しては、総計 2 億 3 千万円を超え、教員 1 人当たり年平均約 530 万円（平成 16～19 年度は 350 万円）に上り、前回評価時よりも高水準となっている。さらに、以下の点は期待を大きく上回る顕著な成果である。

#### 1. 2010 年度日本経済学会・中原賞受賞決定

本研究所教員が 2010 年度日本経済学会・中原賞を受賞することが昨秋決定した。日本経済学会は、経済学における国内最高峰の学会であり、中原賞は、国際的に認知される業績をあげた 45 歳未満の若手経済学者に対して与えられる最も権威ある学会賞である。今回の受賞は、評価対象期間における本研究所の研究活動の実施状況が国内最高レベルであったことを客観的に示し、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

#### 2. 2010 年度日本経済学会・石川賞受賞決定

本研究所教員が 2010 年度日本経済学会・石川賞を受賞することが昨秋決定した。石川賞は、実証面や政策面を中心に、日本の経済・社会問題の解決に貢献する優れた経済学研究を行った 50 歳未満の研究者に贈られる、日本経済学会において中原賞と双璧をなす学会賞である。今回の受賞は、評価対象期間における本研究所の研究活動の実施状況が国内最高レベルであったことを客観的に示し、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

#### 3. 過去に例のない同時受賞

一大学が中原賞・石川賞を同時受賞した例は過去になく、今回本研究所が同時受賞を果たしたことは、本研究所の研究活動の実施状況が国内最高峰であることを客観的に示している。これは明らかに関係者の期待を大きく上回る顕著な変化である。

#### 4. 日本銀行審議委員に指名を受ける

上記の日本経済学会・石川賞受賞者が、政府より日本銀行審議委員の指名を受け、平成 21 年度末に就任した。これは、政策研究ワークショップ・金融研究会を中心とした本研究所における金融政策研究の活動実施状況が国内最高レベルであったことを客観的に示すものであり、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

#### <根拠資料>

日本経済学会ホームページ：<http://www.jeaweb.org/jp/general-Info/index.html>

日本銀行・記者会見：<http://www.boj.or.jp/type/press/kaiken07/index.htm>

**現況分析における顕著な変化についての説明書(教育/研究)**

法人名	国立大学法人神戸大学	学部・研究科等名	経済経営研究所
-----	------------	----------	---------

**1. 分析項目名又は質の向上度の事例名**

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

**2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由****○顕著な変化のあった観点名:研究成果の状況**

## 1. 2010年度日本経済学会・中原賞受賞決定(業績番号1)

本研究所教員が2010年度日本経済学会・中原賞を受賞することが昨秋決定した。日本経済学会は、経済学における国内最高峰の学会であり、中原賞は、国際的に認知される業績をあげた45歳未満の若手経済学者に対して与えられる最も権威ある学会賞である。今回の受賞は、本研究所教員による経済動学理論に関する国際的業績が高く評価された結果である。これは、評価対象期間における本研究所の研究成果に対する客観的な評価であり、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

## 2. 2010年度日本経済学会・石川賞受賞決定(業績番号2)

本研究所教員が2010年度日本経済学会・石川賞を受賞することが昨秋決定した。石川賞は、実証面や政策面を中心に、日本の経済・社会問題の解決に貢献する優れた経済学研究を行った50歳未満の研究者に贈られる、日本経済学会において中原賞と双璧をなす学会賞である。今回の受賞は、本研究所教員によるマクロ金融政策分析に関する業績が高く評価された結果である。これは、評価対象期間における本研究所の研究成果に対する客観的な評価であり、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

## 3. 過去に例のない同時受賞(業績番号1、2)

一大学が中原賞・石川賞を同時受賞した例は過去に無く、今回本研究所が同時受賞を果たしたことは、評価対象期間における本研究所の研究成果が国内最高峰であることを客観的に示している。これは明らかに関係者の期待を大きく上回る顕著な変化である。

## 4. 日本銀行審議委員に指名を受ける(業績番号2)

上記の日本経済学会・石川賞受賞者が、政府より日本銀行審議委員の指名を受け、平成21年度末に就任した。これは、政策研究ワークショップ・金融研究会を中心とした本研究所における金融政策研究の成果が国内最高レベルであったことを客観的に示すものであり、関係者の期待を大きく上回る顕著な変化であると考えられる。

**<根拠資料>**日本経済学会ホームページ：<http://www.jeaweb.org/jp/general-Info/index.html>日本銀行・記者会見：<http://www.boj.or.jp/type/press/kaiken07/index.htm>